

令和元年度ラムサール条約登録湿地関係市町村長会議
及び第11回学習・交流会 開催報告

令和2年3月31日

ラムサール条約登録湿地関係市町村会議事務局

【概要】

令和元年度ラムサール条約登録湿地関係市町村長会議及び第11回学習・交流会が令和元年11月19日（火）、20日（水）の2日間にわたり、宮城県大崎市「アインパルラ浦島」を会場に開催されました。国内ラムサール条約登録湿地52箇所のうち26湿地から29の会員市区町村に加え、国、NPO関係者など、およそ130名が参加しました。

【主管者会議、現地視察】

19日の市町村会議では、会長の大崎市長 伊藤康志氏及び来賓の環境省野生物課長 中尾文子氏からご挨拶を頂いた後、議事に移りました。議事では宮城県 南三陸町と東京都 江戸川区の会員の加入の承認（案）、平成30年度活動報告及び決算報告、令和元年度事業計画（案）及び予算（案）、次期役員（案）について審議され、いずれも承認されました。次期役員（令和2年度～令和4年度）には、会長に栃木市長、副会長に大崎市長と釧路市長、監事に名古屋市長と佐賀市長が選任されました。また、今後の取り組み方針等を掲げる「宮城大崎宣言」が採択となりました。

その後、大崎市のラムサール条約登録湿地である「蕪栗沼・周辺水田」までバスで移動し、NPO法人蕪栗ぬまっこくらぶ 高橋のぞみ氏のガイドの下、マガンのねぐら入りを見学しました。当日は、時より小雨が降る空模様でしたが、見学時には雨も上がり1万羽を超えるマガンが観察されました。



▲市町村長会議の様子

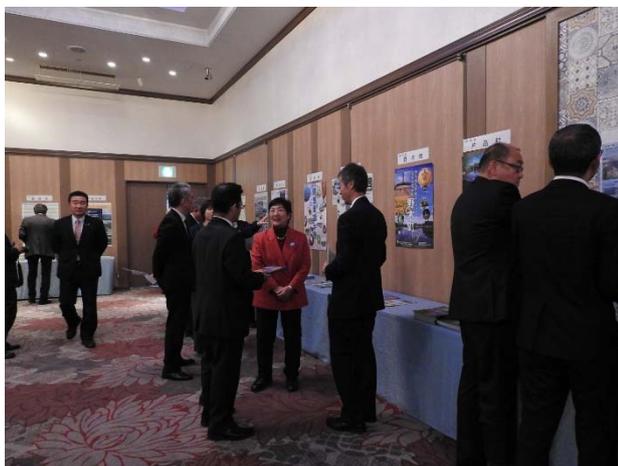


▲マガンのねぐら入りを観察

夜の意見交換会（懇親会）では、「太鼓」の演奏や参加首長による「餅つき」などもあり、地元大崎市産の食材を使った料理や各地から提供の地酒などが食卓に並びました。

【学習・交流会】

13日の学習・交流会では、はじめに、コーディネーターである東京農工大学農学研究院教授 朝岡幸彦氏より、今回のテーマである「湿地を生かした地域づくりとそのしかけ」と題して、趣旨説明をして頂き、NHK エンタープライズ 人事・総務部長 菅山 明美氏より、「湿地を生かした地域づくりを活性化させる20のアイデア」と題して基調講演を頂きました。講演の中で、プロジェクション・マッピングなどのメガ映像を活かした地域活性化事業などをご紹介頂きました。



▲ポスター交流会の様子

その後、大崎市長の伊藤康志氏より「大崎市の湿地を生かした地域づくり」と題して基調講演を頂いた後、政策実践交流会（ポスター交流会）、5市町の首長による取組の紹介と質疑応答を経て、最後のまとめとなりました。

※学習・交流会開催結果の詳細は、<https://www.ramsarsite.jp/koryukai/> をご覧ください。